このスポット・おすすめ!

アートな多肉植物がお出迎え
団らんに最適なくつろぎカフェ

plants 喫茶 greenmama

オーナー自作のおしゃれな店内 ランチは定番メニューが2種類

ようこそ、サボテンと多肉植物の楽園へ。もりもりとアレンジされた寄せ植えがエントランスを楽しげに彩り、一歩店の中へ入れば、心ときめくアンティークの世界。40名収容の店内には、友だちや恋人同士のおしゃべりに最適なテーブル席をはじめ、小さなお子さま連れにうれしい座敷席を完備。連日開店直後から、お店はワイワイと大にぎわいです。

オープンしたのは3年前。多肉植物の作家として活動していたオーナーの平良祥子さんが、「ハンディキャップを持って生まれたわが子が大きくなったときに、一緒に働ける拠点をつくりたい」と温めていた構想を実現させました。友人知人の力を借りながら、床・壁・天井を手作りで仕上げた空間に、自ら購入・リメークした家具をレイアウト。センスよく並べられた小物雑貨はやはり!サボテンをモチーフにしたものがたくさんそろっています。

メニューはランチセットが中心で、「スープ&プレートランチ」と「チキンスイートソースセット」の2種類の料理を毎日用意しています。地産地消を心がけ、どちらのメニューも新鮮な野菜が盛りだくさん。「砂糖はキビ糖、塩は浜比嘉産を使うなど、体にいい食材・調理法にこだわっているつもりですが、料理の本当のおいしさは、この空間と一緒に味わってこそ。ぜひ一度遊びに来て下さい」と平良さん。お店とサボテン・多肉植物の情報が満載の人気ブログも要チェックです。

住所 / うるま市天願 1681
電話 /098-923-0571
時間 /11 時～16 時
休み / 土・日・月
駐車 / 約 20 台
【ブログ】http://tairaion.ti-da.net

〈ランチメニュー〉

①. スープ&プレートランチ…1,200円
メインのスープは 2種類から選択。パンまたはライス、紅茶きのこ酵素ジュース、生野菜サラダ、付け合わせプレート、フリードリンク、豆乳シフォンケーキ付き

②. チキンスイートソースセット…1,200円
メイン、ライス、スープ、紅茶きのこ酵素ジュース、付け合わせ、フリードリンク、豆乳シフォンケーキ付き

なぞなぞに 読者 答えて プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『plants 喫茶 greenmama』で使える

ランチメニュー〈ペア〉お食事券 3組様

Q 雑学クイズ
桜の原産地は次のどれでしょう!

①…日本
②…ヒマラヤ
③…アフリカ

1月号当選者

前号の答え〈お年玉〉

★玉城 ともえさん(読谷村在住)
★比嘉 克也さん(うるま市在住)
★照屋 恵美子さん(読谷村在住)

おめでとうございます!

ワイワイ広場

お便り紹介♪

⑥ おとし玉。
あけまして おめでとう
ございます。
毎月の情報誌 ありがとうございます。
池原建設さんの社員の皆様の頑張りが毎回感じることができ地域にかえし、活性化をもたらすことでしょう
読谷山花織

読者プレゼント応募方法

宛先

切手 はがき 904-0303
読谷村字伊良皆237-1
ウインズ
『広報誌係』
①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

裏

⑥なぞなぞの答え
⑦ご意見・ご感想

応募者の中から抽選で、
読者プレゼントを進呈致します。
どしどしご応募下さい!

締め切り

2017年2月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.150)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)

Fresh(フレッシュ) ウインズ

人と人とのつながりを大切に…。池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

Fresh Winds
2017年 2月号
Vol.149

TOKYO 2020

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00～18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい!

0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

今月の歳時記

2月4日(土)・5日(日)	**まなびフェスタ読谷2017** 会場・開催地／読谷村文化センター等
2月5日(日)	**第9回 りっかりっか いちゃびら祭** 会場・開催地／読谷平和の森球場
2月19日(日)	**第25回 2017おきなわマラソン** 会場・開催地／沖縄市・沖縄県総合運動公園スタート・フィニッシュ
2月25日(土)・26日(日)	**第24回 読谷やちむん市** 会場・開催地／読谷村・JAファーマーズマーケットゆんた市場駐車場

桜前線の南下とともに球春が到来。2月1日からプロ野球春季キャンプが一斉にスタートします。今年は1、2軍合わせて9球団・14チームが来沖。読谷平和の森球場では、例年通り、中日ドラゴンズ2軍チームが2月27日までキャンプを行います。

ストリートストーリー
Street Story!

立ち上げメンバーが集結。開局8年の歩みを振り返る
「FMよみたん」誕生秘話と将来像

■読谷村地域振興センター３階の新スタジオでマイクに向かうFMよみたん仲宗根朝治社長。周波数は78.6MHz（メガヘルツ）

地域に身近なメディアとして、村内外の多くの人に親しまれているFMよみたん。新年早々、立ち上げメンバーが読谷村地域振興センターの新スタジオに集まり、創業当時のエピソードを振り返りながら、2年後に迎える10周年の節目に向けて、抱負を語り合いました。

【胎動期】地域づくりに懸ける思いと行政の目指す方向性が合致

FMよみたんを立ち上げた中心メンバーは、読谷村商工会が25年ほど前に開講していた「むらおこし塾」の3期生。卒塾後も毎月会合を開いては村の将来について語り合い、新規事業へのチャレンジを繰り返してきましたが、2007年、大きなターニングポイントが訪れました。メンバーの一人、現社長の仲宗根朝治さんが勤めていた会社が倒産し、故郷の読谷村で再スタートの準備を始めたのとほぼ同時期に、読谷村ではコミュニティ放送局（FM放送局）設立に向けた動きが活発化してきました。3期生の間でも機運が高まり、「タイミング良くフリーで動くことができた」仲宗根さんが中心となって、本格的に計画に乗り出しました。

「村民、特に情報弱者への行政サービスを強化したい村側の思惑と、地域づくりに懸ける3期生メンバーの熱意のベクトルが一致したんでしょうね」と仲宗根さんは当時を振り返ります。

熱意の本気度は「出資」という形でも示されました。コミュニティFM局の開設に必要な資金1200万円を目標として設定し、3期生に有志を加えた11名の立ち上げメンバーは、自ら出資者になるとともに村内の個人・企業・団体にも広く協力を仰ぎ、最終的には41名の株主から計1550万円を調達。この事業資金を元に、翌年8月1日に「株式会社FMよみたん」を設立し、さらに11月1日と定めた開局日に向けて、猛スピードで準備を進めていきました。

松田 茂さん　比嘉 光雄さん　波平 栄善さん　玉城 清春さん　吉山 盛章さん　金城 輝彦さん　仲宗根 朝治さん

読谷村内聴取率 83.7%

【創業期】準備期間1年半のスピード開局 自由でユニークな番組編成が魅力

仲宗根さんは、FMよみたんの特色について、「全国の数あるコミュニティFM局の中でも、計画段階からこれだけ行政と連携して開局に至ったケースは珍しいのではないか」と話します。そもそも地域の情報発信の一役を担う形で始まった事業であることに加えて、立ち上げメンバーに村職員が参加していたこともあり、一連の事務手続きがスムーズに進行しました。「行政のサポートがなければ、わずか一年半足らずでの開局は、到底不可能だったでしょう」といいます。

行政との連携は、実務面だけではなく営業面にも生かされました。戦略として、「読谷村の公共放送のようなイメージを持ってもらえれば、信頼感は高まるし、耳を傾けてもらえる確率も上がるだろう」と考えたからです。開業時のスタジオ・事務所の設置場所を、村立の読谷村文化センターにしたのもそのためです。「知人から、“仲宗根は会社勤めを辞めて村職員になったみたいよ～”と誤解されたこともありましたね（笑）」。

とはいえ実態は株式会社。利益を上げなければ会社を維持・発展させていくことはできません。民間放送局の収入は主にスポンサーの広告料ですが、FMよみたんでは、番組枠を売らない独自の運営スタイルを採用。放送局「FMよみたん」に対するスポンサーシップの受付と、スポットCMの販売にとどめ、番組は番組として編成しました。

開局日は2008年11月1日。この日を選んだのは、「村制100周年記念の読谷まつり開催日。村民にアピールするには絶好の舞台だから」。開局初日からスタジオを飛び出し、会場に放送ブースを設置して、各種イベントの模様を生中継。慌ただしくも記念すべき第一歩を踏み出しました。

■2008年の読谷まつりの日に合わせて開局

【発展期】再来年の10周年に向けて、地域・スタッフから愛される会社に

開局後は順調に業績を拡大し、経営の教科書のお手本のように「3年単黒、5年累損一掃」を実現。当初は仲宗根さんを含め2人だけだったスタッフも、13名に増えました。また、読谷村が計画している「総合情報センター」を拠点にする構想もありましたが、2年前、読谷村地域振興センター3階に急きょ変更となり、昨年4月から最新の放送機材とテレビスタジオを備えた新たな環境でスタートを切りました。

■昨年4月からスタートしたインターネットテレビ放送

「従来のラジオ放送に加えて、インターネットテレビ事業に取り組むために今の施設に変更になったのですが、テレビ放送はまったく未知の分野。入居時期は事前に決まっていたので、“これだけの設備を1日たりとも遊ばせてはいけない。絶対に移転と同時に放送を始める！”との信念を持って、技術の習得に励みました。最近は徐々に慣れてきて、ようやく見られるようになったかな（笑）」

■笑顔と元気がいっぱい！FMよみたんで働くスタッフの皆さん

番組内容もますます充実し、ボランティアのパーソナリティーは今や150名を超えました。平日の朝は毎日、読谷村各課担当者が生出演して、タイムリーな行政情報を紹介。また最近では、読谷村内の3カ所にテレビカメラを設置して交通情報を流したり、警察・消防などと連携して災害情報を伝えたり、公益的な情報も広く発信しています。

インタビューの最後に、立ち上げメンバーの皆さんに今後の課題・目標について尋ねたところ、「地域の役に立つ有益な情報を提供していきたい」との共通した意見に加えて、さまざまな声が上がりました。

「FMよみたんの放送を聴いた人が、読谷に興味を持ち、実際に読谷を訪れ、読谷のファンになってくれるような、マグネット的なラジオ局でありたい」

「大手ラジオ局と比べると、技術的にまだまだ不安定な面がある。“FMよみたんなら安心して聴いていられる”と思ってもらえるように、放送品質を高めていきたい」

「聴き手のレベルが年々上がっている。発信する側は一段と気を引き締めて、放送レベルの向上に努めなければならない」

そして仲宗根さんは、「1年半後に迫った10周年に向けて社内体制を再構築し、スタッフにとって働きがいのある会社にしていきたいです」と抱負を語ってくれました。

FM 78.6 MHz FMよみたん
FMよみたん 無料アプリ